

日本経済新聞

11月16日

水曜日

冷凍ギョーザ、タイへ輸出

信栄食品 まず百貨店で販売

冷凍ギョーザ製造の信栄食品（松本市）はタイ

への輸出を本格的に始める。同国で好まれる甘めの味にし、日本食らしさを出すため、食材にマゴロやウナギを入れたギョーザを独自に開発した。2017年1月から同国の百貨店で販売し、レストランや学校給食用などの業務用に拡大。同年9

月までに1000万円の売り上げを目指す。

タイで販売するギョーザの開発には同社が導入した食品の味を分析する装置を活用。タイで代表的に使われる風味調味料の味を分析し、糖度が高く甘めのギョーザを開発した。同装置は現地の料理の甘さや苦みなどを分析し、その国で好まれる

味に近づけることができるとの期待だ。

タイでは中間層を中心とした所得の上昇を背景に、食品の安全性への関心も高まり、日本製ギョーザの販売が見込めると判断したという。同社は2月にシンガポール向けと、同国経由でマレーシアやインドネシアへの輸出を始めた。シ

ンガポールでは当初、スーパーや百貨店などでの販売が中心だったが、安全性への評価から、徐々にポールの例を応用し、百貨店から業務用への販売を目指す。